ゼロスペックの「Go NOW」

ホームタンク残量を遠隔で確認

灯油配送を半分に

開発経緯や導入の効果など

多田満朗 社長CEOに聞く

北国の冬の生活に欠かせない灯油の配送は、社会的な人手不足による配送スタッフの不足ゆえで、そのインフラの維持が社会課題となっている。これまで現地で確認していたホームタンクの残量を、灯油スマートセンサーと配送管理システム「GoNOW」を提供することで、配送の効率化による社会課題の解決に取り組むゼロスペック。多田満朗社長CEOに、その開発経緯や導入の効果などについて聞いた。

多田社長CEO

――灯油スマートセンサー「GoNOW」の開発の経緯を教えてください

私は生まれも育ちも札幌で、灯油は生活に欠かせない生活インフラである一方で、雪の中をかき分けて配送する苦労を目の当たりにしていました。

配送のことを調べると、石油販売業者の皆さまは、ホームタンクの残量が分からずに給油に行かれていました。雪の中、重いホースをタンクまで引っ張ったり、油の臭いが付いたりと配送員の負担も大きく、ローリーが雪で挟まった道を塞いでしまい、近隣の方にご迷惑をおかけすることや、そもそも停車する場所がないこともあります。

配送業の中でも厳しい労働環境のなかで、スタッフがより柔軟に働けるようにしなければ離職してしまいます。また、スタッフの方は強い使命感を持っているという人も多く、早朝から夜遅くまで平日・休日の区別なく働いている環境を変えることに寄与したいと思っていました。

海外では公園などゴミ箱のゴミを定期的に回収していたところ、ゴミ箱にセンサーを付けて、満杯になってから回収することで、効率的になったというケースがあります。

このようなデジタル技術を活用した時代が来ないれば、灯油の配送は業者にもスタッフにも負担が大きいままだと考え、自社でセンサーを開発しました。灯油の在庫を遠隔で確認し、定期配送を年7～8回しているところを半分にすることにチャレンジしています。

――導入の効果について

北海道を含めて37都道府県のお客さまに導入していただいています。少子高齢化などの人手不足で配送員が足りなくなってきている中で、配送を30%程度削減できています。

特に地方はスタッフが元々足りなかったので、配達回数を減らすことでゆとりを持ってシフトを組むことができるようになりました。これまでは在庫がわからないため、正月などに休みを取れませんでしたが、可視化することで休日に休みを取ることができるようになったそうです。配送回数の削減で投資性が向上したことに加えて、より良いサービスを提供できるようになったと評価をいただいています。

――大手と小手のどちらの業者によりお勧めと言えるのでしょうか

大手のお客さまにはコストの半減や、配送の効率化によって生まれた人的資源などを、マーケットの拡大にご利用いただいています。中小のお客さまは、比較的小さいマーケットでビジネスをされており、その維持・継続のためにご利用いただいています。シーズン合計で500回の配送を2人で回していたお客さまが、配送を最適化すると、スタッフが1人欠けてもこれまでの配送を維持することができます。おかげさまで導入していただいている業者さまも中小企業の皆さまの方が多く、規模にかかわらずすべての石油販売業者さまにお勧めです。

――今後の展開をお聞かせください

おかげさまで「GoNOW」の認知も広まっており、センサーも新しくしたことで、ある程度に満足いただけるサービスを提供する足場がさらに整ったものと認識しています。今冬以降、灯油配送に広く使っていただけるよう取り組んでいきたいと思っています。

灯油以外の石油製品やアドブルーなどは、灯油の配送と同様に在庫の確認に課題を抱えていると聞いています。灯油の他にも多くセンサーを提供し、データを可視化することで、高齢化や人口が減っていくなかで労働生産性の向上に寄与していければと思っています。

新型のセンサー

新型センサー 精度が大きく向上

これまで、灯油残量の確認は、タンク設置先に赴く必要があり、配送のタイミングを見極めることが難しいという課題があった。燃料価格の高騰や温暖化の影響で、需要家の灯油使用量は節約傾向にあるが、灯油の配送は使用量に関係なく定期配送されているケースも多く、配送コストを考慮すると採算に合わないケースも出てきている。

ゼロスペックの灯油スマートセンサーと自動発注配送管理システム「GoNOW」は、2020年10月からサービスを開始。このほど、新型灯油スマートセンサーを開発・リリースした。

「GoNOW」は、センサーで遠隔から残量を可視化。適切なタイミングで必要な量の給油を行える。

残量はパソコンやタブレットから確認でき、AIによってデータを分析。消費予測をするとともに、設定条件を元に配送計画を自動で作ることができる。

センサーはキャップ一体型なので工事不要で、誰でも簡単に取り付けることが可能だ。

導入例を見てみると、1配送あたりの平均給油量は30%アップ。配送回数は30%削減できた。1顧客あたりの配達回数も年間12回から8回へと改善している。